

～女性の社会増のための効果的な施策形成～

令和3年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：女性の社会増に向けた効果的な施策形成のための調査研究
研究代表者：宮古短期大学部 教授 松田淳
課題提案者：宮古市企画部企画課地域創生推進室 室長 中居裕美
研究メンバー：大志田憲、谷藤真琴、平田哲兵（以上、宮古短期大学部）
技術キーワード：人口減少、女性の社会増、政策提言、地域振興

▼研究の概要（背景・目標）

- 1 宮古市の転出超過は、高校生が就職及び進学するタイミングで最も大きくなっており、特に一度転出した若年女性の多くが再度転入していないことが判明。だが、宮古市が行った評価及び検証では、若年女性が転出超過となっている要因の詳細な分析までには至っていない。
- 2 本研究は、こうした要因を分析するとともに、宮古市として女性の社会増に向けて、どのような施策が有効なのかを検討。

▼研究の内容（方法・経過）

- 1 宮古市から転出した若年者に対するアンケート調査やインタビューにより情報を収集し、これを分析することで、転出した理由や、今後の宮古市との関係性などについてどのような意識を抱いているかを評価。
- 2 この分析結果をもとに、今後、宮古市の人口減少、特に若年女性の転出超過に歯止めをかける有効な政策を検討し提言。

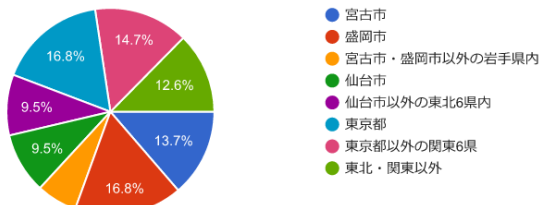
▼研究の成果（結論・考察）

今回は、95名（出身地では「盛岡市」32.6%、「宮古市」31.6%、「他」35.8%。性別では「男性」50.0%、「女性」47.9%、「他」2.1%）からの回答を得た。

- 1 現在の居住地は、「盛岡市」、「東京都」、「東京都以外の関東6県」、「宮古市」などに広く分散。居住の理由は、「進学」が63.2%と、「転出せず」や「就職」を圧倒している。
- 2 居住地の満足度は、4分の3程度が「満足」、「どちらかという満足」と回答。その理由（複数回答可）は、「勉強面や仕事面で充実している」が64.0%と他を圧倒しているが、「自分のライフスタイルに合っている」、「医療機関や交通機関が充実している」、「文化や娯楽が充実している」がともに30%を超えている。

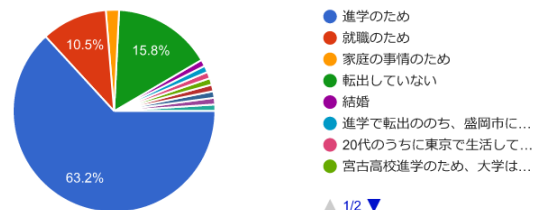
【設問4】現在の居住地についてお聞きします。

95件の回答



【設問5】出身地からの転出理由についてお聞きします。※選択肢にない場合は「その他」を選択しその理由を入力を、転出したことがない場合は「転出していない」を選択してください。

95件の回答



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- 1 今回のアンケート調査によって、現在の居住地や、居住・転居の理由などについて、おおむね把握することができた。ただし、こうした調査結果も出身地によって異なることが予想される。
- 2 今回は、サンプルデータがやや少なかったこともあって、より確度の高いデータを得る必要があるため、今後は、宮古市出身者や若年女性に焦点を絞ったアンケート調査を拡充するとともに、さらにインタビュー調査も加えて、問題の核心を掘り下げることで、政策提言につながる現状の分析を進める予定。

岩手県宮古市の社会増減に関するアンケート調査

このアンケートは宮古市と岩手県立大学と協働で実施し、今後のまちづくりに係る取り組みに繋げるものです

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

【設問1】年齢についてお聞きします。

- ~19歳
- 20歳~29歳
- 30歳~39歳
- 40歳~49歳
- 50歳~59歳
- 60歳~

【設問2】性別についてお聞きします

- 男性
- 女性
- 回答したくない